

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第11回
議事要旨**

1. 日時 平成15年9月18日(木) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 相澤委員, 古賀委員, 輿水委員, 柴田委員, 陣内委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 中山委員, 松岡委員, 山崎委員

4. 会議の概要

- (1) 第2回最終発表に向けた言い換え提案の確定作業について
最終発表に向けて, 中間発表からの修正の方針・対応について検討を行った。
- (2) 第3回言い換え作業等について
第3回の言い換え作業, 中間発表までの日程の確認が行われ, 言い換え候補60語について検討していくこととした。

5. 会議での主な意見

ここでやっていることはあくまで提案であり, カタカナ語を使っていけないということは, まったく考えてもいないということはどれだけ強調してもしすぎることはない。意味を曖昧なままにして使ったりすることや, 意味の分からないカタカナ語の氾濫を少し立ち止まって考えてみようという基本姿勢を重ねて打ち出す必要がある。

英語での意味・用法を反映した言い換え, 原義に立ち戻った言い換えではなく, 日本語の公的な媒体で現在よく使われている外来語としての意味・用法に対して, 分かりやすい表現の工夫を提案しているとの趣旨を明確にして理解を求めるべきである。

公的な媒体での意味・用法の調査には, 白書・新聞を用いる。語によって, また, 意味・用法によっては, 必要に応じて, 広報誌, 雑誌, メールマガジン, WEBを用い, 用例として示すものは, 言い換え語で言い換えられる典型的な用例とするなど, 文章として分かりやすい用例を示すのが良い。

「言い換え語」は, 最適の一語に絞り込むことを目指すが, 意味の広い語など, 複数提示するほうが分かりやすい場合は, 複数提示してはどうか。「その他の言い換え語」, 「複合語例」は, 場面に応じて使える言い換え語も含めて, 多めに提示したほうが良い。

理解度のみならず, 意味や使用分野, 歴史的経緯などの特徴を踏まえ, 定着の度合いや今後の方向を見据える。その上で, 今後定着が見込まれる語については, 外来語のまま用いることも許容する方向を出す。また, 説明付与などの工夫の方法を具体的に提案する方向に広げていっていいのではないか。

メセナ, フォーラム, データベース, オンラインのような語は, これまで採用してきた提案の枠組みには, 納まらないところがあるので, 更に慎重に扱うため次回に送るのが良い。

以上